

琉球フィルハーモニックは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsとは？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



琉球フィルによるサステナビリティ活動

琉球フィルハーモニックでは

「思いやりと感謝の心」「音楽と共にまちと響きあう」を理念に

行政・地域住民・事業者等との意見交換や連携により

SDGsを意識した取り組みを積極的に行い

地域社会とともに持続発展する未来づくりに貢献します。



音楽による子どもの居場所づくり



琉球フィルが運営している「ジュニアジャズオーケストラおきなわ那覇ウエスト」は、沖縄県・公益財団法人沖縄県文化振興会の支援により平成29～令和1年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業「ジュニアジャズオーケストラによる子どもの居場所づくり」として、那覇市随一の繁華街を有する那覇市若狭公民館区および那覇中学校区の5つの小学校の児童を対象に、2016年10月より活動を行っています。

この事業は、どんな家庭環境の子にも音楽とおした多様な体験により生きる力を育むルーティン化された居場所づくりとして、自治体や企業等と連携して活動しています。

子どもたちの指導には6名のプロのジャズ講師、フェロー（ボランティア指導員・OB）があたっています。

子どもたちは那覇市若狭公民館3階ホールにて週2回の練習会を積み、「若狭地域文化祭」「若狭公民館まつり」などの地域行事や「発表会」、各種イベントでも演奏を披露しています。このことは地域の活性化や世代間交流にもつながり、地域の方々から地元のジュニアジャズオーケストラとして親しまれています。



子どもの育成&交流



琉球フィルが運営する「那覇ジュニアオーケストラ」は、2013年10月より活動をスタートしました。団員是那覇市および県内各地の小学生から高校生で構成され、学校や学年の垣根をこえて「思いやり」と「感謝の心」を大切に、音楽活動を行っています。

指導者には、琉球フィルハーモニックオーケストラのメンバーを中心に、プロの指揮者や演奏家を招き、技術と音楽力の向上に努めています。

これまでに1年間の練習成果を披露する定期演奏会の開催をはじめ、多くの演奏会等に出演。2016年には「第6回世界のウチナーンチュ大会」に出演。2015年より5年連続で「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞」を受賞し、東日本大震災を風化させないことと、音楽による子どもたちの交流を目的に、2016年と2018年には沖縄県で、2017年と2019年には宮城県にて『「響け！復興へのハーモニー～つながる未来～」若手・宮城・福島・沖縄の子どもたちによる合同オーケストラコンサート』を開催しました。2020年には『いのちよ響け「奇跡のピアノ」沖縄コンサート～さとうきび畑とともに～』に出演。また、病院や施設などでの慰問演奏や、世界で活躍している一流音楽家との交流も行うなど、活動も多岐にわたっています。

子どもたちは音楽とおした多様な体験により、心の豊かさを育み、喜びを分かち合える仲間の輪が広がっています。



チェロ奏者 ミッシェル・マイスキー氏と一緒に



バリアフリーコンサート



障害者がコンサートホールで音楽を鑑賞する際に、バリアフリーの面ではまだまだ課題があります。そこで音楽や福祉など各分野の専門家が集い「ゆいまーるミュージックプロジェクト」チームを組織し、障害者やご家族、関係者が心ゆくまでコンサートを楽しむための環境づくりを話し合い、その実践の場として「美らサウンズコンサート」(オーケストラ公演)を開催しています。また、本公演では障害を抱えて活動しているアーティストをゲストに招き、共演している音楽家との相互理解と交流を深めていく場にもなります。さらに、公演終了後に冊子を作成しそのノウハウを全国に広め、文化芸術による共生社会の推進に取り組んでいます。



音楽療法による児童デイセンター



琉球フィルでは演奏活動の他に子どもたちの育成をとおして、子どもたちと音楽の関わりの中から様々な経験を積み重ねてまいりました。その経験を基に、2019年より福祉事業部門を新設し「児童デイセンターこどもの城ミュウ（児童発達支援・放課後等デイサービス）」を開所いたしました。当事業所では、高良幸人氏（音楽療法家）を所長兼スーパーバイザーに招いて、琉球フィルのプロの音楽家と共に音楽療法を軸に、様々な関係各所と連携を取りながら、子どもたちの「育ち」を見守っていきます。また、中学高校の生徒には、就労支援につながるよう社会性が経験できるよう促しています。



言語心理療法家とスタッフが一緒にこども達の心に寄り添い「ことば」と「きこえ」の促しをしています。



こども達の個性を理解し楽器を通してコミュニケーションを図っています。



ひとりひとりの可能性を引き出すハビリテーション（療育支援）を通してこども達の個性を響かさせていただきます。



すべての障害を個性として寄り添いこども達の「余暇（よか）った」を応援しています。



音楽おそび/感覚遊び/造形遊び/運動遊びを通したメディアバランスアートをダイナミックに応援します。



アロマセラピストによる穏やかな親子のスキンシップケアができます。



聴覚障害のあるこども達にも、気持ちを表現できる気付きと安心を手助けしています。



親御さんの不安を「今ここ！」のタイミングで緊急援助を行いケアする人のケアを大切に支援していきます。

離島・へき地の文化芸術振興



舞台公演に触れる機会の少ない離島・過疎地域などで、沖縄県と連携（「地域クラシックコンサート実施事業」「地域の文化芸術振興事業」等）してプロ音楽家によるオーケストラやジャズの公演を開催しています。芸術の感動を体感できる環境づくりや、当該地域において自主的に文化芸術の事業を企画、開催するきっかけづくりや文化創造活動の促進を図り、地域の文化振興を促すことを目的として2015年から取り組んでいます。

これまでの開催地

久米島、渡嘉敷島、久高島、竹富島、座間味島、南大東島、北大東島、与那国島、金武町、読谷村、与那原町、大宜味村、今帰仁村、国頭村、



スクールコンサート



琉球フィルでは児童生徒が音楽をとおして心健やかで豊かな生活を送るためのサポートを行っています。プロの演奏家による生演奏をとおして、日頃から接しているCDやメディア（媒体）では感じえない生音楽の素晴らしさ・感動を届けるために、県内の小中高校生を対象としています。このコンサートはプロ演奏家が学校などを訪れ、音楽鑑賞授業として行っています。

児童生徒は演奏を鑑賞するほかに、演奏家と一緒に演奏したりする中で、演奏家の音楽に対する姿勢を感じ取るにより向上心の高まりや、学校生活に良い影響が表れたという報告も寄せられています。今後も学校の先生方と連携しながら、より効果的な内容の「スクールコンサート」に取り組んでまいります。



ICTを活用した様々な取り組み



離島の多い沖縄県において、ICTを活用した質の高い音楽教育を子どもたちや、学ぶ機会を求める人々に対し、効果的な学習環境などを提供できるよう取り組んでいます。



コロナ禍で自粛期間中那覇ジュニアオーケストラの子どもたちはリモートでレッスンを受けました。



ワークショップ「憧れのジャズヴォーカル」の離島受講生にジャズヴォーカル安富祖 貴子さんがリモートでレッスンを行いました。(写真は那覇⇄波嘉敷島)

琉球フィル指揮者 後藤 正樹 氏が開発した遠隔双方向授業システム「Real time LMS」のセミナー&ワークショップ関連記事（2013年4月13日てんぷす那覇ギャラリーにて開催）



沖縄タイムスこども新聞「ワラビー」2013.5.5



琉球新報2013.4.19



LMSについての講演を行う 後藤 正樹氏

平和発信



琉球フィルは、先の戦争で犠牲になった多くの御霊を弔い、平和を希求し、沖縄県平和祈念財団などと協力して平和発信に取り組んでまいります。



「国立戦没者墓苑 盆供養祭」にて献奏



「岩手・宮城・福島・沖縄の子どもたちの交流」「平和の礎」にて



「沖縄全戦没者追悼式前夜祭」にて献奏

地域との連携



包摂的かつ持続可能な街づくりを促進するために、行政・地域住民・事業者等との意見交換や連携により、SDGsの啓蒙活動、課題や具体的な取り組みについて共有し、共助・共創型地域づくりに参加しています。

(銘苅小・若狭小まちづくり協議会／那覇新都心通り会
NPO法人沖縄県立美術館支援会happ 他)



銘苅小学校区まちづくり協議会

自然保護活動への参加



「チームけらま」のサポーターとしてビーチクリーンなどの環境美化や自然保護などへの取り組みに参加しています。

※一般社団法人「チームけらま」は慶良間諸島の「環境保全活動」「観光振興」「経済発展」「相互理解による平和交流」「伝統文化の継承」を目的に活動を行っています。

